

### 第1学年から第4学年までに学習しているもの

英語ノートの中に第1学年から第4学年までで既に学習している内容がある。これらの内容については学習済みであると捉え、該当する部分にあたる英語ノートを第5・6学年において使用しないと判断した。

英語ノートの単元	
・世界の「こんにちは」を知ろう（英語ノート1）	・ジェスチャーをしよう（英語ノート1）
・数で遊ぼう（英語ノート1）	・クイズ大会をしよう（英語ノート1）
・行ってみたい国を紹介しよう（英語ノート2）	

### カリキュラムの設定

以上のことから、本校のカリキュラムと英語ノートとの関連を踏まえて、第5・6学年の単元を次のように設定した。

	本校の単元	活用する英語ノートの単元
第五学年	あいさつ・復習	
	好きなものは？	自己紹介をしよう
	誕生日はいつ？	自己紹介をしよう
	何曜日が一番好き？	
	何時に起きる？	
	オリジナルサラダを作ろう	ランチメニューを作ろう
	プレゼントにほしいものは何？	
	じまんでできることって何？	
第六学年	あいさつ・復習	
	動物園のガイドをしよう	道案内をしよう
	誕生日はいつ？	カレンダーを作ろう
	何曜日が一番好き？	カレンダーを作ろう
	何時に起きる？	自分の一日を紹介しよう
	プレゼントにほしいものは何？	
	将来の夢を語り合おう	将来の夢を紹介しよう
	じまんでできることって何？	できることを紹介しよう

#### 【新しく設定したカリキュラム ～第5・6学年～】

このように設定したカリキュラムを基に、実践を行っていった。実践についての詳細は97頁にて詳述する。

### 3 実践事例

#### (1) 学級担任（HRT）の役割を明確にした実践例 ～「気象予報士になってレポートをしよう」（第4学年）～

本単元では、英語を用いてコミュニケーションを行う必然性をもたせるため、気象予報士になって外国から友達に天気予報を伝える活動を設定し、HRTの役割を明確にして実践を行った。

第4学年 英語活動指導案		単元名「気象予報士になってレポートをしよう」（6月）	
単元の目標 ・新しい英語の表現やリズムに興味・関心をもち、楽しんで表現することができる。 ・気象予報士になりきって習った表現の方法を使い、友だちに伝えることができる。			
単元計画	活動	HRTの支援	ALT・JTEの支援
第3週目	1 英語であいさつをする。（毎時開演） ・簡単な質問に答える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の始まりのあいさつを行い児童に簡単な質問を英語で行う。</li> <li>ALT・JTEにも簡単な質問を行い交替する。</li> <li>ALT・JTEと役割を分担して英会話体験を行い、その後学級を2つに分けて行う。</li> <li>デモンストレーションをALT・JTEと行う。</li> <li>積極性を出すためにナショナルジオグラフィックのテーマ曲を天気ニュースのBGMを流す。</li> <li>教室をスタジオにして、ディレクター、ミキサー、気象予報士の配役を決めておく。</li> <li>希望者を募り発表の練習を行う。</li> <li>児童のジェスチャーや笑顔などを賞賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HRTの質問を受けた天気や体調、曜日等の質問を行う。</li> <li>HRTとデモを行った後、学級を2つに分けた一方のグループのサポートをする。</li> <li>新しい表現の発表について指導を行う。</li> <li>デモンストレーションを行った後、会話文が定着するよう繰り返し練習する。</li> <li>児童の発表を聞いて、うまくできているところ</li> </ul>
	2 ウォーミングアップ（毎時開演） ・The Weather Songを歌う。 ・英会話たいそう Unit 6：How about you? Unit 2：Sure!		
	3 天気予報の発表を行う。新しい表現を知る。		
	4 おわりの歌を歌う。（毎時開演）		

### HRTを中心とした指導案の作成

計画の段階において、みんなの前で堂々とした態度でショー・アンド・テルができることを最終的な目標にした。しかし、英語での発表に不安をもっている子どもも多いと予測されたため、普段の子どもの様子を十分理解しているHRTが基本的な英会話表現の練習や進行を、ALTが英語の発音や新しい表現の練習に関することについて指導を行うようにした。両者の役割を明確にして実践を行うことを踏まえ、指導案を作成した。

### 子どものつまずきを捉えた支援

実践では、基本の会話表現を練習していく際、うまく発音できなかつたり、不安で声が小さかつたりする子どもが見られた。HRTは子どものつまずきを的確に捉え、ALTに正しい発音を示してもらい、その後、ALTの発音に続けて練習を行った。このことで、子どもたちは自信をもって適切な発音で表現することができるようになった。また、普段、表出することが苦手な子どもが「発表したい」という意志を示していたのを見逃さず、HRTが意図的に指名し発表の機会を保障することができた。さらに、ALTが出身国の気候についての説明を行った際、HRTは子どもが十分理解できていないと感じたため、日本語での説明を加え、気候の違いに気付かせることができた。このようにHRTが中心となって取り組み、普段の様相と英語活動での様相とを比較することで、つまずきを捉え、適切な支援を行うことができたのである。

### クラスルーム・イングリッシュの積極的な活用

また、HRTは授業中できるだけクラスルーム・イングリッシュを用いて指示や励ましを行った。このことで「間違えてもいいから積極的に英語を使おう」という雰囲気をつくることや、HRTがALTに質問したり、聞き返したりする等、共に英語を学ぼうとする姿を示すことができた。

実際のショー・アンド・テルの場面では、HRTが子どもの発表の支援を、ALTが子どもの発表を評価するという役割を設定し、子どもたちにもALTからの評価が得られることを伝えた。子どもたちは好きな国の天気や天候に合わせた準備物（雨ならば傘、晴れならば帽子等）を自ら選び、国旗や天気のカードを指さしたり雨の様子をジェスチャーを用いて表したりしながら、笑顔で自信をもって発表することができた。ALTからも評価を得られることが効果的に働き、さらに自信をもつことができたようであった。

Hi. This is \_\_\_\_\_ in Paris.  
Today will be rainy all day.  
Please bring your umbrella.  
Have a nice day. Bye.



【HRTが支援を、ALTが評価を】

## (2) 英語ノートを活用した実践例 ～「好きなものは？」(第5学年)～

### 本校カリキュラムと英語ノートのカリキュラムとの関連

これまで本単元では、好きなお菓子をたずね合い、最後に自分の一番好きなお菓子をショー・アンド・テルによって伝えるアクティビティを設定していた。

一方、英語ノートの「自己紹介をしよう」では、自分の好きな物や嫌いな物を友達同士でたずね合い英語ノートに記入し、最後は自分の好きな物を含めて自己紹介をするアクティビティが設定されていた。これは本単元と重なるものがあると捉え、重なりが見られる部分においては英語ノートを用いて実践することとした。

そして、活用する英語ノートのパージや活動内容を次のように指導案に位置付け、実践を行うこととした。

第5学年 英語活動指導案 単元名「好きなものは？」 (6月)				
単元目標 ・新しい定型表現に興味・関心をもつことができる。 ・覚えた定型表現や会話表現を用いてコミュニケーションを図ろうとすることができる。				
単元計画	活動	HRTの支援	ALT・JTEの支援	準備物
第3週目	1 英語であいさつをする。(毎時実施5分) ・簡単な質問に答える。Hello. I'm fine. /happy/hungry/sleepy	How are you doing? Let's start today's lesson. CDに合わせて楽しく歌う	Ask some questions for reviewing last year. CDに合わせて楽しく歌う	- 英語ノートのCD - 録カード
	2 ウォーミングアップ (毎時実施5分) 基合紙たいそうを導入する	JTE・ALTと見本を見せる。 児童に好きなものを聞く。(分担して半数ずつ) ペアで聞き合う。	HRTと見本を見せる。 児童に好きなものを聞く。(分担して半数ずつ) ペアで聞き合う。	
	3 定型表現を習ってみる。(30分) I like dogs. I like chocolate. Do you like ...? Yes, I do. No, I don't. I like ... 言葉を置き換えて話量の練習をする 好きなものの言い方たずね方を使う 好きなものを習って自己紹介をする Hello. My name is ~. I like ~. Thank you	英語ノートのレッスンをする(CD) JTE・ALTに合わせて正しく発音する(紙質指導) 年度始めに立てた目標に従って振り返る 自己評価 教師評価	HRTと見本を見せる。 児童に好きなものを聞く。(分担して半数ずつ) ペアで聞き合う。 紙質指導 Show your mouth, teeth and tongue and say the alphabet clearly. Introduce the phonics alphabet	
	4 フォニクスアルファベットに親しむ(毎時実施7分)			
	5 活動を振り返る(毎時実施3分)			

英語ノートの位置付け

### 英語ノートを活用した実践

実際の授業では、自分の好きな物をノートに書き込んだ上で、それを友達が好きか嫌いかたずねるようにした。自分の好きな物を友達が「好き」と応えてくれた時にはうれしそうな表情で、反対に「嫌い」と応えられた時には残念そうな表情で、それぞれの友達の名前を英語ノートに書き込んでいった。こうすることで、多くの友達と交流した成果を実感することができた。



【英語ノートを用いて活動】

さらに、単元の終末段階では、まとめとして自己紹介を行う場面を設定した。これまで多くの友達と交流することで、子どもたちの中に進んでコミュニケーションを図ろうとする意欲が生まれ、常に積極的に発表したり、友達の紹介を聞いたりすることができるようになった。また、いつも顔を合わす友達に自己紹介するよりも、活動に新鮮さをもたせるために、授業参観の機会を利用し、保護者の協力を得て自己紹介する場を設定した。自分から保護者のところへ行って自己紹介することに躊躇する子どもも、「英語ノートにたくさんの方のお名前を記録しよう。誰が一番名前を集められるかな。」と呼びかけることによって「いつもと同じでよいのだ」「たくさんの人とコミュニケーションをとりたい」と考え、自分から進んで自己紹介する勇気につながったようである。



【保護者への自己紹介】

このように、英語ノートを活用することで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てていった。

## 4 成果と課題

### (1) 実践を通しての成果

学級担任（HRT）の役割を明確にすることによって

担任が指導案を作成することで、子どもの発達段階や興味・関心を踏まえた活動を設定することができ、これまで以上にコミュニケーション活動への意欲を生み出しやすくなった。



HRTが積極的にクラスルーム・イングリッシュを用いたり、ALT・JTEのことは十分に子どもに伝わっていないと感じた時や自分自身がはっきりしない時には、ALT・JTEに意図的にたずねたりする等、共に英語を学ぼうとする姿を見ることができた。

また、ショー・アンド・テルの進め方や手順について説明する場面や、文化や気候の違いを補説する場面において、HRTが日本語で説明を行った。HRTが日本語を用いればよい場面が特定されつつある。

普段の子どもの様相と、英語活動時の様相との比較から、HRTが発表する子どもを意図的に指名したり賞賛の言葉をかけたりすることができた。また、つまづきを早期に発見することができ、適切な支援へとつながった。

発表等の場面においてHRTが発表の支援を、ALT・JTEが発表の評価を行う等、新たな役割分担が設定できた。HRTの役割や機能を明確にすることで、HRTとALT・JTEの新たな連携の在り方が明らかになってきた。



英語ノートの活用の視点からカリキュラムを見直すことによって

英語ノートを活用する視点から本校のカリキュラムとの接点を探ることで、新たな視点から活動を見直すことにつながった。そのことがアクティビティを充実させ、子どものコミュニケーション活動に対する意欲化へとつながった。

### (2) 今後の方向性

HRTの役割が明確になればなるほど、ALT・JTEの役割もまたはっきりしてくる。ALT・JTEの特性である専門性をより生かすにはどのような役割を設定すればよいのか、連携の在り方も含めてその可能性を探っていく必要がある。

英語ノートで取り扱われている国際理解の内容については、本校のカリキュラムとの接点を見出すには至らなかった。今後、これらの内容をどのように取り入れていくか、新しい活用の方法を探っていく必要がある。